

## フタスジヒメハムシ

### ○ 被害と発生生態

成虫は体長約4 mmのハムシで、名前のお通り汚黄色の体の背面に2条の黒色の縦線がみられる。

成虫はダイズの他にアズキ、インゲンの葉、子葉、莢、茎を食害する。食害により子葉は裏面を深い皿状にかじり取られ、葉にはやや不整形な円形の穴があく。成虫による葉の食害が直接被害に結びつくことは少ないと考えられるが、莢の表面が食害されると食害痕から菌が侵入し、黒斑粒や腐敗粒が発生する原因となり品質低下や減収を招くことがある。

幼虫は根粒内に潜入し食害するが、多発した場合、根粒の窒素固定能力が低下するためダイズ地上部の生育が抑制される。

山口県では年間2回発生すると考えられる。4～5月頃に越冬した成虫が作物へ移動し、雌成虫は5～8月に地中に潜りダイズの根の近くに点々と産卵する。第一世代成虫は7～8月頃、第二世代成虫は9～10月頃にみられる。越冬成虫は、日当たりのよいほ場内や畦畔の落葉や雑草の間に潜んで越冬する。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種的・物理的防除

- ・ダイズ連作ほ場や近隣で連作・輪作するほ場が多いと発生密度が高まるため、連作を避け、可能な限り離れたほ場で輪作を行う。
- ・越冬場所となるほ場のすき込みを行う。

#### (イ) 薬剤防除

- ・防除は、莢伸長期（開花期後30日頃）と子実肥大期（開花期後45～50日頃）に吸実性カメムシ類と併せて行う。
- ・多発生している場合は防除を行う。薬剤に対する感受性は高い。
- ・発生が多い地域では、幼虫の防除を行う。



フタスジヒメハムシ成虫



フタスジヒメハムシによる  
被害莢と被害粒